

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771500430		
法人名	富士サービス株式会社		
事業所名	グループホーム富士		
所在地	香川県綾歌郡宇多津町2643番地3		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 16 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭で生活しているような、間取りや、ゆっくりとした時間が流れるような空間が、ご利用者に提供され職員が個別のケアを行っている。また、地域の人々と交流を深めるため参加できるイベントや自治会の活動にも積極的に取り組み、災害時などの訓練も合同で行っている。安心のサポート体制で林内科の主治医が往診・合田歯科の口腔内点検・治療の往診、利用者の希望する病院へ家族が行けない場合には受診の介助を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771500430-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 1 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員みんなで考えた経営理念を具体的に紐解きながら、忠実に実践している施設であった。施設の環境は、①職員や利用者との関係がよく、一人ひとりに合った自然な語り口調で寄り添うように接していて、家庭的な場所であった。②利用者や職員の表情も良く、利用者自らが居室へ案内して下さり、「ここはええよー」と答えてくれた。また、リビングからは、笑い声や元気な歌声が評価中にも響いてきて、明るい雰囲気が伝わってきた。利用者の介護として、③トイレ介助、歩行での移動や車イスへの移乗などは身体拘束を踏まえて、ある程度自由に行動して頂き、見守りを最小限にした自立支援を行っていた。地域の関わりとして、④市町村や婦人会との連携も強く、地域清掃や防災訓練も共に行い、協力を仰げる関係が築かれていた。輪番制ではあるが、ごみ当番・お札や広報誌配りを行ったり、施設長自らが地域の児童へオレンジリングの講習会を開き、認知症への理解の啓発活動も行ったりしている。施設長と介護支援専門員の優れた関係性から、地道な活動を積み重ね、地域や現場の職員からの信頼も厚くなり、利用者に快適な住環境が提供できていた。経営理念を重要と考えた職員に恵まれ、利用者の笑顔からも窺える。さらに理想の施設に近づき発展していくであろう。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に掲示して共有し常に心がけています。朝礼にて唱和し内容についても時々話し合いをしている	リビング横の入り口と事務所の見えるところに掲示していて、毎日の朝礼で唱和でしている。理念の内容が難しかったこともあり、数年前に職員全員で考え、わかりやすく実践できるようなもの変わった。日々の業務でも理念に沿った介護をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが流行する以前は地域指導のもと消防訓練や地域の行事・作品展に定期的に参加していた。自治会に加入し回覧板で地域の情報収集し役員もしている	地域の清掃に参加したり、防災訓練も合同で行ったりした。秋には作品の展覧を行い、祭りの太鼓隊が施設の目の前まで来てくれたこともあった。婦人会の方から教えて頂いた、マンデガン体操も週1回実施している。施設が地域の役員にもなっているの、ごみ当番、お札や広報誌配りもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は中学生の職場体験実施していた。町からの依頼を受け認知症サポーターとして説明会にて講義してます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報の交換や利用者の現状報告をし意見の交換を行っている。家族の参加を促しているが会議への参加は難しい(声掛けはしている)	コロナの状況を鑑みて現在は、face to faceの会議を開催している。地域包括、役場の方、市の保険課、婦人会の会長、GH職員が参加していて、現状の確認、イベントや研修の案内について話を行った。会議では、コロナ対策をして入居者の受け入れや見学するようことの安全に配慮する言葉を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは普段から直ぐに連携できる環境にあり、担当者が運営推進委員会に出席したり、市町村からの研修に参加している	窓口はケアマネが基本だが、他の職員が連絡しても対応して頂いている。市の職員とは2ヶ月に1回会うことがあり、入居案内などの有益な情報提供をして頂いている。施設長が児童向けサポートの研修を開催したり、コロナ以前は中学校の職場体験も受け入れたりしていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置により事業所が作ったマニュアルの確認や事業所内部、外部の研修に参加している。参加できなかった職員は資料を読んでいる。身体拘束に関しては職員全員が把握している	身体拘束についてのマニュアルを玄関に掲示している。内・外部の研修にも積極的に参加して知識を深めている。職員の目が行き届く時間帯は玄関の施錠はせずに、徘徊される方に対しても見守りの姿勢を取っている。転倒の危険性があるのでゆっくり移動したり、車いすのストッパーを掛けたりするなどの配慮がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会で話し合い虐待がないように努め虐待防止の徹底を心掛けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われるご利用者がいる場合は随時、説明・アドバイスをを行い又行事等の協力を求め、ご利用者の支援に結び付けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に重要事項説明書・契約書を読み説明を行い疑問点があれば説明を行い理解して頂ける様に説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や窓口を作り意見を聞く機会を設けると共にご家族には電話や手紙、訪問時にはこちらから声掛けし、コミュニケーションを図り、苦情についても真摯に対応している	利用料の支払いは、施設で直接手渡しをするので、その際に意見を聴取することができている。家族からの要望で、マスク着用・短時間での面会を行った他、職員が家族の代わりに通院へ同行することもある。利用者からは、お刺身やスイカ、アイスクリームが食べたいという要望があり、笑顔で美味しく食べている写真が貼ってあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを図り主任を中心に職員の意見や提案を聞く機会を多くとるように心がけている。又、会議やミーティング等を活用し話し合いを持っている	職場の雰囲気も良く、業務中にも意見が飛び交っている。10年以上勤続している職員がゲートキーパー役となっているので、意見が集まりやすく何でも話しやすい。利用者の様子を見て、固いものが食べれない方のために、刻み食からミキサー食に変えたこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人が仕事にやりがいを持てるように係や担当を決めて実践している。職員それぞれが意見要望等を話しやすいように環境の整備に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者には事業所外で開催される研修には、なるべく参加し無資格者には、介護職員初任者研修、介護福祉士の資格を受けるように声掛けしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで同業者と交流する機会があり、その時の意見交換等を日頃の業務の参考にしている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、ホームに見学に来て頂き直接状況を観て安心して頂くよう配慮を行っている。入居時に、ご本人に伺えることはゆっくりと傾聴させて頂き伺うことが困難である場合はご家族を交えて伺い安心確保に繋げる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後、ご家族の困っていること、不安などの要望等をお聞きして、ご家族が信頼できる環境づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人の思いを聴きながら信頼関係を築くと共に必要としているサービス支援を考えています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ラジオ体操や歌、レクリエーションを毎日職員と一緒にしており、そうした共同生活の中で支えあう関係が築くことが出来ていると思う。又、関心のある方には家事なども一緒に行って頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことも連絡や相談を行い、ホームで過ごされているが、(家族として繋がっている)関係性づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの方、隣人などに、散歩や自治会などを通じて交流に努めている。	入居している利用者を大切にするという思いがあり、長い方で約10年入居している。利用者を自宅で看たいという家族からの要望があり、自宅へ帰った方もいて、現在は馴染みの場所で元氣よく過ごしているとの言葉が聞けた。職員が帰る際には、「もう帰るんですか?」「気をつけて帰ってね」という言葉がくらい今では馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握し、職員も交わりながら行事やレクリエーション等を通じて、関わり合いが持てる関係づくりを支援する。意思疎通が難しい方に対しては、職員が間に入りお互い良好な関係が築けるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外でお会いするとお互いに声掛けたりします		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの意向を聞き、意向の分かりづらい方については、ご家族から情報収集し、意向を把握しようとする取り組みを行っている	傾聴する姿勢を大切にしている、「〇〇したい」という要望があれば、できるだけ叶えてあげられるように支援している。季節に関する要望が多く、祭りや花火が見たいという意向を叶えた。作業中にさりげなく質問したり、昔話に花を咲かせたりすることで意見を聴取しやすくしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に出来る限り教えて頂いたり、ご本人とのお話の中から聴き出しています。話しやすい環境作りにも努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事など普段の生活や会話の中から見つけ出して記録し把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に意見を求めている。職員に意見を聞きながら計画担当者がまとめ介護計画書を作成している。アセスメントを詳しく書くように心掛けている	ケアマネが中心となり、職員の意見をよく聞いた上で、利用者に寄り添ったプランを作成している。日々の生活状況をよく観察することで、アセスメントにも工夫を凝らしている。些細なことでも変化があればケアプランに反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子やご本人の言葉を記録している。また、日報・夜勤の申し送りを徹底しており職員が情報を共有出来るように話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて医療機関への受診援助、希望により自宅への一時帰宅・外泊の支援など出来る事は柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場、社会福祉協議会、民生委員、近隣の方など、地域資源の中で「地域で暮らしている」という安心で豊かな暮らしが出来るように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、ご利用者の健康管理等ですぐに連携できる体制である。また、かかりつけ医はご利用者の意向に沿いながら選んでもらっている。受診の付き添いは場合によっては家族に協力してもらっている	内科のかかりつけ医は、施設のかかりつけ医に転医している。月2回の往診があり、緊急時には夜間も対応してくれる。医療が必要な場合は、看護師の方も来られる。歯科医は週1回の訪問があり、口腔ケアや口腔体操をしてくれる。他科へは、元のかかりつけ医を受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、かかりつけ医と連携しており適切な受診や看護を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や電話相談をする。ご家族とは随時連絡を取りながら退院時のスムーズな受け入れができるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を踏まえ医師職員が連携をとり、安心して納得した最後が迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる	看取りは実施している。入居時に看取りの説明をして同意を得ているが、看取りに期に差し掛かった際には、ドクターの診断を仰いだ上で、再度丁寧に説明をしている。退院した後、看取りを希望される方も多く、家族や本人の希望に沿った上でドクターと相談して、看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などに参加し、事故防止に取り組むと共に応急手当が出来るように訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い具体的な避難方法について学んでいる	年2回昼想定で火災と地震対策を行った。自治会の誘いもあり、地域の防災訓練にも参加している。水害や土砂の災害の危険が少ない場所に立地しているが、近隣の保健センターが避難場所となっている。事務所に緊急連絡網、リビング内のすぐに取り出せる場所に、防災頭巾と避難用リュックを置いてある。	防災訓練を工夫してみたいかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上から目線にならない様に気を付けてます。日々の関わり(トイレ介助、入浴など)の中で言動には配慮し、プライバシーの侵害にならないようにしている	基本は苗字に「さん」付けだが、反応がいい場合や苗字が一緒の場合には、下の名前に「さん」付けて呼んでいる。居室へは、ノックをしてから入室するようにしている。トイレ使用時には、カーテンを閉めることでプライバシーを確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に合わせた声掛けをして、表情や気分を読み取ったり、日々の会話の中で働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしてきたのかを把握して一人一人のペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人は自分で選り着替えて頂き身だしなみも見守りで整えて頂いています。出来ない人は一緒に着替えて身だしなみも整えています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを採り入れ、ご利用者の好みや、苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、ご利用者と職員が同じ食卓を囲んで楽しく食べている	調理担当の職員がいて、三食手作りで地産地消している。箸とコップは馴染みの物を使用している。洗い物や皮むき、包丁を使ってお手伝いをしてくれる利用者もいる。食事中はアットホームな感じが漂い、ゆったりとした時間が流れていた。月1回、利用者との調理の日があり、楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と一日の摂取量を把握し記録している。入所時にご本人に好きなもの、嫌いなものを聞いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態に合わせて洗面所にて行っている(うがい及び歯磨き、義歯の洗浄)自分で出来ない人(スポンジでケア)定期的に訪問歯科も利用している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄出来るように支援している。失禁パンツ・紙オムツを使用している人もいます	自分から「トイレへ行きたい」という方が多く、スムーズにトイレ誘導ができています。日中はオムツの方はおらず、夜間は安眠に考慮してオムツの方も数名いる。排泄を失敗しても、本人や周りが気にしない環境なので、オムツやパットもスムーズに交換できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維を多く取り、体操をするようにしている。介護職員・調理職員で共有し予防に心掛けています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回午後より希望やタイミングに合わせて入浴している。個浴の普通浴のみで車椅子利用者はシャワー浴をしている。体調不良や身体状況悪化の場合は全身清拭を行っている	週3回の入浴。脱衣所には冷暖房が完備されている。拒否される方には、お風呂というワードを使わず「洋服を洗濯しよう」など言葉を掛けて誘導し、決して無理強いほしないように配慮している。入浴が長くならないようにタイマーを活用したり、シャワー浴や足浴、清拭をする場合もある。気分を変えて、入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また一人一人の体調や表情・希望等を考慮してゆっくり休息がとれるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬の処方説明をファイルに保管し、全職員がわかるよう徹底している。服薬時はご本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をし記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割表を作り、ご利用者が自宅にいる時と同様に生き生きとした生活が出来るように支援している。楽しみごとなどを見つけ一緒に楽しみ気分転換をしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が穏やかな日は、近隣へ散歩に出かけ会話を楽しんでいる。外出の希望時は、ご家族の意向に合わせて自由に行えるようにしているが、可能な限り出かけられるようにしている	近隣の地域コミュニティへ散歩をすることが、避難場所の確認にも繋がっている。家族の方が利用者と一緒に外出へ連れて行った際には、外泊や外食をして帰ってくるので、気分転換となっている。GHの前にあるアパートに満開の桜が咲き誇り、毎年恒例行事として利用者と楽しみとなっている。	施設内でも、外出した気分を味わえる工夫をしてみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に応じて家族の協力のもと管理方法を取り決め少額のお金を持っている人もいますが、ほとんどの人は家族が管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出す為の支援を欠かさず行い、ご家族の年賀状は郵送している。通話だけ出来る電話を持っている人もいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや小物を製作し設置したり、花を生けたり見た目も楽しい雰囲気を作り、音楽や照明はご利用者の意向を確認しながら調整している	リビングで元氣よく歌を歌っている声が評価員の癒しとなった。廊下には力強く書かれた正月の書初めの作品が展示され、リビングには誕生日がわかりやすいように干支を使った大きな作品が堂々と飾ってあった。ラジオ体操やカラオケ、塗り絵や計算ドリルをして、健康に配慮した取り組みを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き、場所づくりをしています。共同スペースに机と椅子があり自由に過ごして頂けるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物、馴染みのある物を持って来て頂き、居心地よく、安心して過ごせるよう支援している	仏壇や使い慣れた椅子や机、タンスを持ち込むことで自分らしい居室となっていた。本やお経を読んだり、化粧をしたりして自分の時間を過ごせる空間となっている。居室ではゆっくりと落ち着いて過ごすことができ、「ここはええよー」と笑顔でVサインをして答えてくれた利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、また廊下、トイレ、浴室に手すりを設置することで、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。玄関はスロープになっています		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				